



Nature News

撮影：2026年1月31日 網張の森

個性豊かな冬芽と葉痕 冬芽が帽子や冠、葉痕が顔に見えるのは、シミュラクラ現象（3つの点があると顔と認識してしまう脳の働き）によるものです。冬の森を歩いて「枝先の顔」を見つけてみませんか？



イワガラミ（アジサイ科）



コシアブラ（ウコギ科）



トチノキ（ムクロジ科）

冬芽の中には、葉や花や枝になる芽が小さくまとまっています。それらの芽を寒さや乾燥から守るために、さまざまな**工夫**がされています。



ミズナラ（ブナ科）



ブナ（ブナ科）

工夫で最も多いのは、芽を鱗のような芽鱗で包むことです。芽鱗は少ないものでは1〜2枚ですが、多いものでは30枚にもなるものがあります。芽鱗で包まれた芽を鱗芽と言いますが、鱗芽は一般に、ブナやミズナラのような寒い地方の落葉樹に多く見られます。

木肌（樹皮）にも個性があります。つるつるした樹皮、縦に裂ける樹皮、横縞がある樹皮…



ブナ（ブナ科）



ミズナラ（ブナ科）



ダケカンバ（カバノキ科）